

(3) 世界文化遺産への立ち寄り、周遊状況の確認

登録 20 周年を迎えた世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」における立ち寄り状況及び周遊状況の確認を目的に分析を行った。

対象とした史跡は世界文化遺産に登録されている「首里城」「識名園」「斎場御嶽」「中城城跡」「座喜味城跡」「勝連城跡」「今帰仁城跡」の 8 か所とした。加えて、比較・参考のために「美浜アメリカンビレッジ」「美ら海水族館・海洋博公園」についても対象とした。

1) 世界文化遺産の立ち寄り率

対象とした世界文化遺産及び主要観光地の立ち寄り率について、下表のとおり整理を行った。

- 世界文化遺産の立ち寄り率をみると、首里城（8.4%）が最も多く、次いで斎場御嶽（5.8%）が続く。その他の世界文化遺産への立ち寄り率は 1%程度となっている。

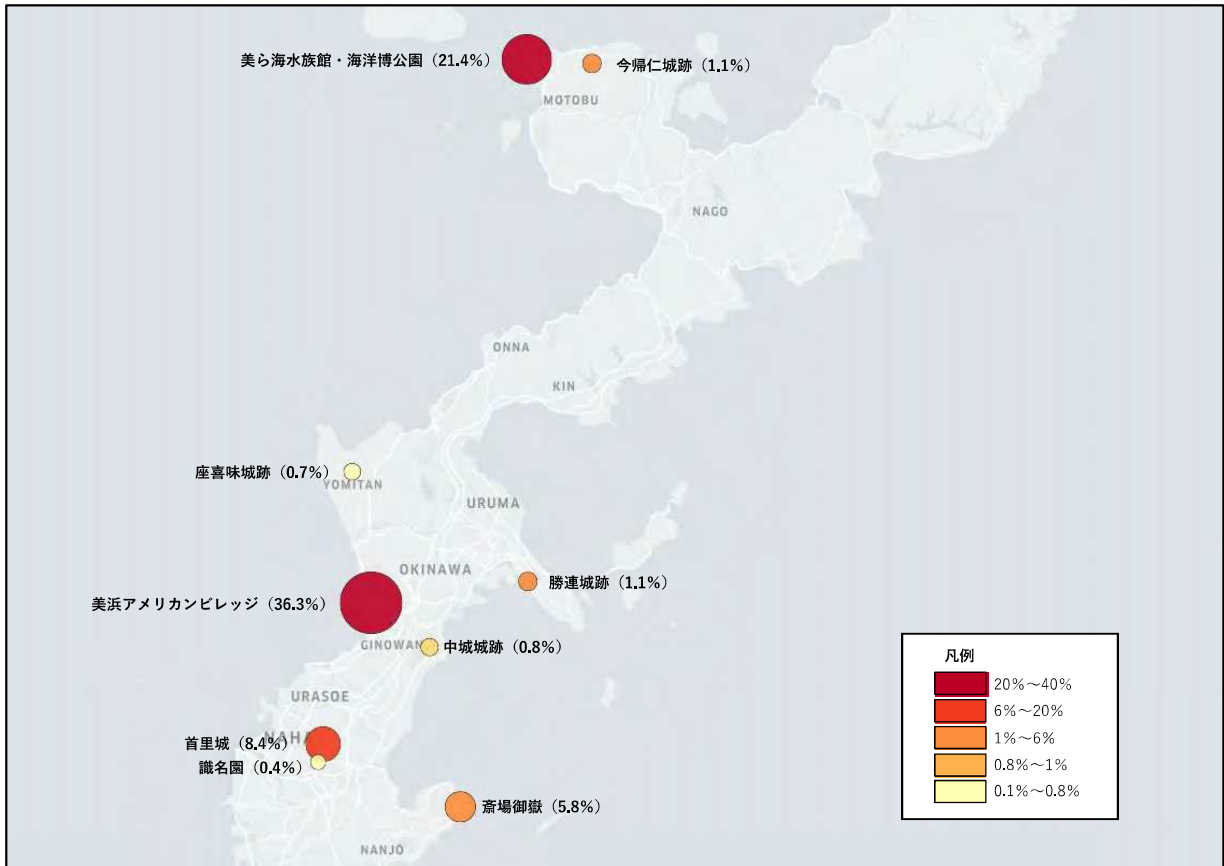
図表 40 世界文化遺産及び主要観光地の立ち寄り率

観光エリア名	立寄り件数	立寄り率
首里城	431	8.4%
斎場御嶽	295	5.8%
勝連城跡	58	1.1%
今帰仁城跡	58	1.1%
中城城跡	43	0.8%
座喜味城跡	37	0.7%
識名園	21	0.4%
美浜アメリカンビレッジ	1,855	36.3%
美ら海水族館・海洋博公園	1,095	21.4%
サンプル数	5,115	100.0%

【立ち寄り率について】

- サンプル数（5,115 サンプル）に対する各施設のサンプル数を示す。首里城であれば 431 サンプルが立ち寄っており、立ち寄り率は 8.4%となる。
→立ち寄り率＝各施設の立ち寄り件数÷サンプル数

1) で整理した世界文化遺産及び主要観光地について、地図上にバブルチャートにて示す。



図表 41 立寄り率のバブルチャート

2) 世界文化遺産間の周遊状況

世界文化遺産間の周遊状況を把握するため、世界文化遺産間の各周遊パターンの整理を行った。下表では、世界文化遺産間の全 20 パターンについて、立ち寄り率を基準に降順に整理した。

- 全体及びすべての属性において、斎場御嶽⇄首里城の周遊パターンが最も多い。全体でみると、次いで今帰仁城跡⇄首里城、今帰仁城跡⇄勝連城跡が続く。

図表 42 世界文化遺産同士の周遊パターン（周遊率にて降順表示）

順位	周遊パターン	周遊件数	周遊率
1	斎場御嶽⇄首里城	45	0.88%
2	今帰仁城跡⇄首里城	10	0.20%
2	今帰仁城跡⇄勝連城跡	10	0.20%
4	中城城跡⇄斎場御嶽	9	0.18%
4	勝連城跡⇄斎場御嶽	9	0.18%
6	中城城跡⇄首里城	8	0.16%
6	今帰仁城跡⇄斎場御嶽	8	0.16%
6	勝連城跡⇄中城城跡	8	0.16%
9	識名園⇄首里城	7	0.14%
9	勝連城跡⇄首里城	7	0.14%
11	勝連城跡⇄識名園	6	0.12%
12	座喜味城跡⇄首里城	5	0.10%
12	斎場御嶽⇄識名園	5	0.10%
12	座喜味城跡⇄斎場御嶽	5	0.10%
15	中城城跡⇄識名園	4	0.08%
15	座喜味城跡⇄中城城跡	4	0.08%
15	今帰仁城跡⇄中城城跡	4	0.08%
15	勝連城跡⇄座喜味城跡	4	0.08%
19	今帰仁城跡⇄識名園	3	0.06%
20	座喜味城跡⇄識名園	1	0.02%
20	今帰仁城跡⇄座喜味城跡	1	0.02%
—	サンプル数	5115	100.00%

【周遊率について】

- 周遊率とは、サンプル数（5,115 サンプル）に対する各周遊パターンの周遊件数が占める割合。「斎場御嶽⇄首里城」の場合、同パターンのサンプル数は 45 サンプルであり構成比は 0.88%となる。
構成比＝各周遊パターンの周遊件数÷サンプル数

3) 世界文化遺産間の立ち寄り状況

世界文化遺産同士の周遊状況を確認するため、各エリアに対する周遊率を整理した。下表では、各エリア間の立ち寄り状況を示している。(例：首里城(立ち寄り431件)に立ち寄った利用者のうち、識名園へ立ち寄った割合は1.6%。)

- 首里城は世界文化遺産のなかで立ち寄り件数が最も多いエリアだが、斎場御嶽を除く世界文化遺産への立ち寄りは1~2%程度である。
⇒ 斎場御嶽も首里城以外との世界文化遺産への立ち寄りは1~3%程度となっている。
- 識名園の立ち寄り件数は少ないが、その他の世界文化遺産への立ち寄りが多い傾向にあり、世界文化遺産の関心が高い人々が訪れている可能性がある。

図表 43 世界文化遺産及び主要観光地の立ち寄り状況

エリア名	立ち寄り件数	首里城	識名園	斎場御嶽	中城城跡	座喜味城跡	勝連城跡	今帰仁城跡	国際通り	美浜アメリカンビレッジ	美ら海水族館・海洋博公園
首里城	431		1.6%	10.4%	1.9%	1.2%	1.6%	2.3%	32.9%	20.4%	22.0%
識名園	21	33.3%		23.8%	19.0%	4.8%	28.6%	14.3%	42.9%	9.5%	42.9%
斎場御嶽	295	15.3%	1.7%		3.1%	1.7%	3.1%	2.7%	32.9%	19.0%	18.6%
中城城跡	43	18.6%	9.3%	20.9%		9.3%	18.6%	9.3%	27.9%	23.3%	25.6%
座喜味城跡	37	13.5%	2.7%	13.5%	10.8%		10.8%	2.7%	21.6%	18.9%	16.2%
勝連城跡	58	12.1%	10.3%	15.5%	13.8%	6.9%		17.2%	27.6%	20.7%	29.3%
今帰仁城跡	58	17.2%	5.2%	13.8%	6.9%	1.7%	17.2%		34.5%	24.1%	27.6%
国際通り	2807	5.1%	0.3%	3.5%	0.4%	0.3%	0.6%	0.7%		14.8%	11.4%
美浜アメリカンビレッジ	1855	4.7%	0.1%	3.0%	0.5%	0.4%	0.6%	0.8%	22.4%		13.9%
美ら海水族館・海洋博公園	1095	8.7%	0.8%	5.0%	1.0%	0.5%	1.6%	1.5%	29.3%	23.5%	

3.1.4 データ分析のまとめ及び観光2次交通機能強化に向けた方策

前節まで確認してきたデータ分析結果のまとめと今後の観光2次交通機能強化に向けた方策を以下に示す。

(1) データ分析のまとめ

1) 自治体別の立ち寄り状況及び周遊状況の把握

■立ち寄り状況

自治体別の立ち寄り状況を見るとこれまで言われていたとおり、那覇市、豊見城市、名護市等の西海岸の自治体への立ち寄りが多い傾向にあった。また、東海岸の自治体では、観光施設等が所在するうるま市、南城市、沖縄市への立ち寄りが多い。

圏域別では、南部・中部・北部で同程度（約3割ずつ）の立ち寄り率であった。一方、約8割が立ち寄る西海岸に対して、東海岸は2割と極端に低くなっており、従来から指摘されているとおり、西海岸に立ち寄りが偏重している状況が確認できた。

■周遊状況

自治体別の周遊パターンを見ると、那覇市から豊見城市、名護市、恩納村、北谷町、本部町等といった主要観光地を有する西海岸の自治体への割合が圧倒的に多い。

東海岸のみの周遊パターンを確認すると、うるま市、南城市、沖縄市といった東海岸で立ち寄りの多い自治体を含めた周遊パターンが多い。

西海岸と東海岸の周遊については、那覇市、豊見城市等とうるま市、南城市、沖縄市との周遊パターンが多い。

2) 施設（メッシュ）単位の立ち寄り状況の把握

■立ち寄り状況

美浜アメリカンビレッジへの立ち寄りが最も多く20.3%、次いで海洋博公園への立ち寄りが多く17.5%であった。

近年開業の施設としては、令和2年6月開業のイーアス沖縄豊崎が7位、平成30年6月開業のParco Cityが21位、令和2年2月開業の道の駅おおぎみが49位であることを確認した。

属性別では、30代以下女性は他の属性より高い割合で美浜アメリカンビレッジに立ち寄っていることがわかった。

■周遊状況

施設単位の周遊状況では、立ち寄り件数の多かった美浜アメリカンビレッジ又は海洋博公園を含む周遊が多いことが改めて確認できた。

3) 世界文化遺産への立ち寄り、周遊状況の確認

■立ち寄り状況

世界文化遺産の立ち寄り状況をみると、首里城（8.4%）が最も多く、次いで斎場御嶽（5.8%）が続く。その他の世界文化遺産への立ち寄りは1%程度となっている。

■周遊状況

世界文化遺産間の周遊を確認すると、「首里城⇄斎場御嶽」の周遊パターンが最も多い。識名園の立ち寄り件数は少ないが、識名園への立ち寄り者は、その他の世界文化遺産への立ち寄る割合が高い傾向にあった。以上より、識名園を訪れる人は世界文化遺産への関心が高い可能性がある。

(2) データ分析の結果を踏まえた観光2次交通機能強化の方策

データ分析の結果を踏まえ、本県における観光2次交通機能強化の方策提案を以下に示す。

1) 東海岸への立ち寄り及び圏域内周遊の促進

- ▶ 国道329号を活用した観光周遊ルートの造成・周知
 - ・レンタカー利用者に対しては、国道329号を活用した観光周遊ルートの造成及び周知により東海岸への周遊促進に繋げる。
- ▶ 公共交通を活用した観光周遊ルートの造成・周知
 - ・主に東海岸を運行するバス路線（30番等）を活用した観光周遊ルートの開発や、東海岸の観光地を周遊する新たな路線の開拓、周知促進により東海岸圏域への周遊促進を目指す。

2) 美浜アメリカンビレッジの観光拠点としての整備

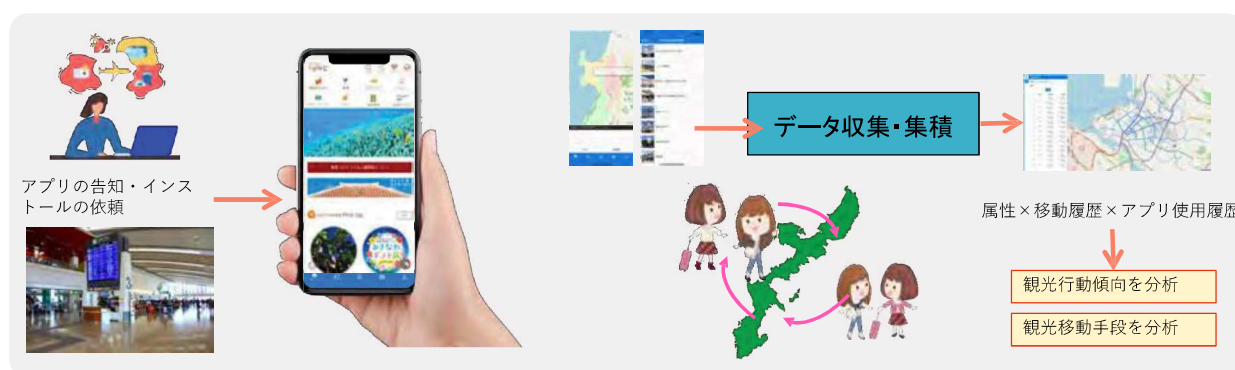
- ▶ 公共交通（シャトルバス等）と連携した観光プランの造成
 - ・空港や那覇市街地から美浜アメリカンビレッジ間の輸送能力の向上（公共交通やシャトルバス）を図り、美浜アメリカンビレッジからレンタカーを利用するといった観光プランの造成・周知により那覇市内周辺の渋滞解消（特に夏季ピーク期）等を目指す。
 - ・また、美浜アメリカンビレッジを起点とした公共交通網の整備により公共交通の利用促進を目指す。
- ▶ 美浜アメリカンビレッジにおける県内観光情報の集約
 - ・美浜アメリカンビレッジが起点として県内各地域を周遊するため、同地区内に県内の観光情報を効率的に取得できる環境（インフォメーションセンター等）や仕組み（サインージやサイトへの案内）を整備する。

3.2 おきなわ物語アプリによる動態データ取得および分析

今後の観光二次交通に係る課題解決、利便性向上等に資する基礎的データの取得を目的として、スマートフォンアプリからの動態データ取得・分析の手法を検討した。

具体的には OCVB が開発を進めているスマートフォンアプリ「沖縄観光ナビ～おきなわ物語」に対して、本事業にて動態調査機能の付加（位置情報取得、観光地への訪問記録、属性登録、データ取得の同意等）を行った。

なお、本アプリケーションにより観光客の動態データを取得し、前述のレンタカー利用者のデータと合わせて集計することで幅広い観光客の動態を分析することを目指す。



図表 44 おきなわ物語アプリによる動態データ取得及び分析の流れ

3.2.1 アプリの構成・内容

動態データ取得を基本とした観光スポットの紹介アプリをβ版として提供した。

県内の観光スポット情報のデータベースは、OCVB が運営する Web 版「おきなわ物語」のテナント情報を収め、ユーザーがアプリ上で検索した観光スポットまでのルートを表示している。

バス・モノレール等公共交通機関を利用したパターン表示時は、OTTOP からの情報を活用し、徒歩移動の所要時間も含めて表示している。

①アプリケーション名	・沖縄観光情報アプリケーション「沖縄観光ナビ～おきなわ物語」
②主なサービス機能	<p>■観光スポット情報の紹介・検索サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OCVB が運営する Web 版「おきなわ物語」のテナント情報を活用 <p>■観光スポットまでの経路表示サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス・モノレール等公共交通機関を利用したパターン表示時は、OTTOP からの情報を活用し、徒歩移動の所要時間も含めて表示
③動態情報の調査機能	・同意を得た利用者の位置情報の取得を実施



図表 45 おきなわ物語アプリの主な使用画面

3.2.2 データの取得方法および取得データ

本アプリにおけるデータの取得方法、取得データについては以下の通り。

(1) データの取得方法

アプリをインストールした端末よりバックグラウンドで位置情報データを取得した。位置情報のデータの取得は、アプリの事前設定にて、「旅の記録機能」を利用することに同意してから位置情報の取得が開始される。

図 46 データ取得概要

収集するデータ	<ul style="list-style-type: none"> • アプリから取得される位置情報データ • 属性（性別・年代・居住地 等） • 観光地の訪問記録、交通手段等
収集方法	<ul style="list-style-type: none"> • インストールされた端末より位置情報データを収集 • 来県前、空港等にてアプリのインストールを依頼

(2) 取得データ

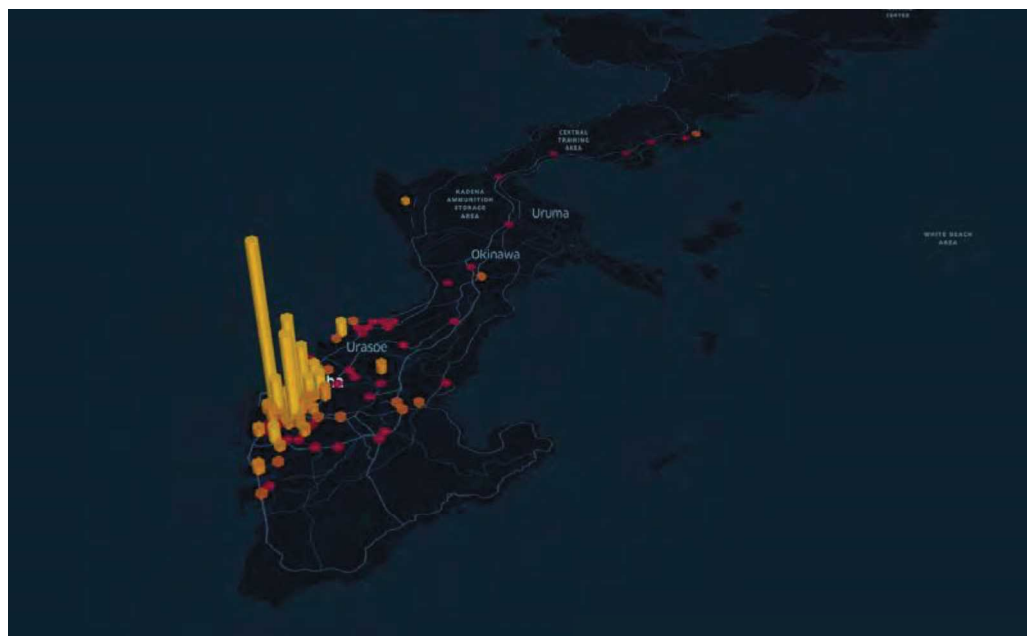
本事業期間中にアプリのβ版を関係者に配布し、動態データの取得を行った。取得したデータの概要を以下に示す。

図表 47 取得データ概要

位置情報を取得したユーザー数		26
年代	20代	9
	30代	6
	40代	8
	50代	1
	60代	1
	70代	1
性別	女性	6
	男性	19
	その他	1
出身地域	沖縄	22
	北海道	0
	東北	0
	関東	2
	中部	1
	近畿	0
	中国	0
	九州	1
	その他	0

3.2.3 動態データの分析

アプリより取得した位置情報データについては、前章にて説明した分析システムにて集計・分析を行うことが可能であるが、本事業期間中は関係者による動態データの取得となったため、以下ではメッシュごとの立ち寄り件数を集計した結果のみを示す。



図表 48 メッシュごとの立ち寄り件数の集計